

第9回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

KEK 物構研では、ユニークな特徴を有する J-PARC MLF (MUSE) の世界最高強度の負ミュオンビームの優位性を活かし、文化財をはじめとする人文科学資料の研究にも活用できる可能性を秘めた、新たな非破壊研究手法を開発してきた一方、これまでも放射光や中性子などを用いて、様々な文化財科学の研究が行われています。そこで、放射光・中性子・ミュオンなどの量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催するに至りました。2019 年度に第1回文理融合シンポジウムを国立科学博物館において開催してから、8回のシンポジウムを開催し、有意義な時間を共有してきました。第9回もミュオンのみならず中性子、放射光を用いた目覚ましい文理融合研究の成果や施設の各種性能向上などを、皆様で共有したいと思います。皆様の御参加をお待ちしております。

なお、11/2 (土) には、以下の先生方の一般講演を企画しております (詳細)。一般の参加者向けにオンライン配信いたしますが、シンポジウムにご参加いただく方は、会場でご講演をご聴講いただけます。

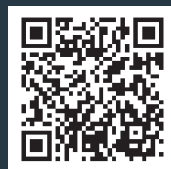
- 「宇宙線ミュオンイメージングによるクフ王ピラミッドの新空間の発見」
森島邦博 准教授 (名古屋大学)
 - 「源氏物語と平安時代 - 1000 年前はどのような時代だったか」
小倉慈司 教授 (国立歴史民俗博物館)
 - 「新アカデミズム = 文理融合と年縞博物館 (Part 2: 取材 40 年、アキハバラの真実)」
山根 一真 特別館長 (福井県年縞博物館)
- 世話人代表 下村浩一郎 (KEK 物構研)

2024 年

11/1^金・2^土

秋葉原
コンベンションホール
(オンサイト開催)
参加費：無料

参加申し込み・
プログラム等
詳細は WEB を
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/msl/2024/09/9-1.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
代表 下村 浩一郎
E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館、総合研究大学院大学

協催：J-PARC センター、大阪大学 核物理研究センター (RCNP)、日本中間子科学会、

大阪大学フォアフロント研究センター・先端ミュオン科学による文理協力型学術創出プロジェクト

Spring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 文化財研究会、学際領域展開ハブ形成プログラム「人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成」